

毛利重就の巡見関係記録、29冊（毛利家文庫6巡見事37～65）

制度 ②

萩藩主重就、領内巡見「はじめる」 (1)

《萩藩7代藩主重就》

萩藩6代藩主の死去に伴い、宝暦元年(1751)4月、長府藩主の毛利匡敬が本藩を継ぎ、7代藩主毛利重就となりました。約30年後の天明2年(1782)8月、重就は息子治親へ家督を譲り3年5月から三田尻に隠居しますが、寛政元年(1789)10月に65才で亡くなるまで、「大殿」として藩政に影響力を持ち続けました。

その治世では、藩財政立て直しのために宝暦検地や山検地を実施、撫育方を設置したほか、国分寺金堂の寄進、三田尻御茶屋の大改築なども行いました。また、元就や輝元の年忌法要を大規模に実施したり、歴史・先例調査を専門に行う密用方を新設しています（シート21参照）。

《毛利家文庫・巡見事》

毛利家文庫6巡見事には、萩藩主が

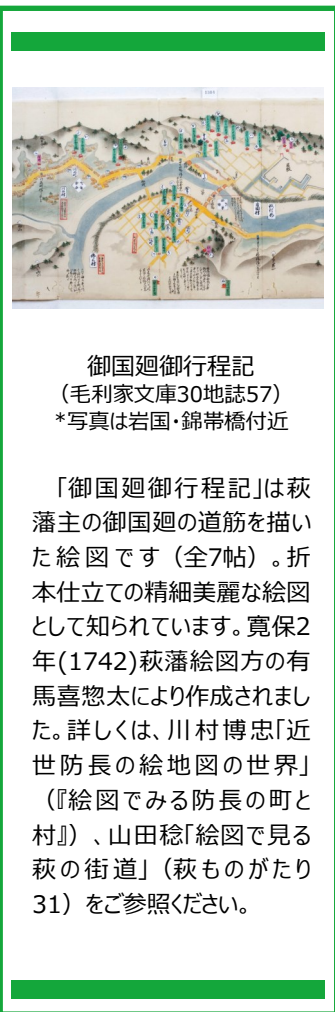
初入国時に行う「御国廻（おくにまわり）」の記録や、湯治や狩りを名目に藩主が領内巡見に出かけた際の記録があります。目立つのは重就関係の記録の多さです。重就が「はじめて」領内巡見に出かけたのは宝暦2年10～11月、湯治名目で前大津宰判深川（現長門市深川）へ行った時です。以後、寛政元年の「出萩」（三田尻→萩）まで、約40年間で26回の巡見をし、その記録29冊が残ります。他の藩主と比べ飛び抜けた多さです。

《巡見へ出る重就》

重就の巡見は単に回数が多いだけでなく、巡見先が多様なことも特徴です。

宝暦6年(1756)には阿武郡の生雲と徳佐（現山口市）、天明5年(1785)には上関・大島郡方面を巡見し、同年9～10月には長府・下関を訪れています。小郡、岐波、宇部、須々万へも狩りに出かけています。

前述のように萩藩主は初入国時、防長



御国廻御行程記
(毛利家文庫30地誌57)
*写真は岩国・錦帯橋付近

「御国廻御行程記」は萩藩主の御国廻の道筋を描いた絵図です（全7帖）。折本仕立ての精細美しい絵図として知られています。寛保2年(1742)萩藩絵図方の有馬喜惣太により作成されました。詳しくは、川村博忠「近世防長の絵地図の世界」（『絵図でみる防長の町と村』）、山田稔「絵図で見る萩の街道」（萩ものがたり31）をご参照ください。

両国を巡見する「御国廻」を行うしきたりがありました。萩を出て時計回りに防長両国を巡るもので、新藩主が領内のようなすを知り、自らの威光を領内に示す貴重な機会でした。しかし、寛保元年(1741)6代宗広を最後に以後行われていません。経費や準備にかかる負担の大きさが理由と考えられます。

重就による領内巡見は、湯治や鷹狩など自らの楽しみのためである一方、領民に自らの姿を見せる場、威光を示す機会ともなったはず。「御国廻」こそ行いませんでしたが、領内各地への巡見を重ねることで、「新たな形の御国廻を始めたようとした」とも言えそうです。

《8代治親の巡見》

8代治親も、家督相続直後の天明4年(1784)10～11月、42日間もの巡見を行いました。そのルートは他藩主にはみられないものです。その行程を紹介しましょう（毛利家文庫6巡見事50・51）。

10月18日萩を発ち深川着、以後御茶屋に滞在しつ

つ、狩りや大寧寺参詣、地下相撲や正明市祭礼踊などを見物。11月1～3日先大津宰判の河原（現長門市）へと足を延ばし大柵山で狩り。3日深川へ戻り、4日高寿者の御目通りを許しています。5日深川を発つと美祢宰判大田（現美祢市）へと進み同所勘場に泊、6日狩りに興じた後、7日山口へ。翌日山口を発つて小郡御茶屋に入り、9～11日と名田島新開で鷹狩。12日三田尻へ進み、28日まで同所御茶屋に滞在。鷹狩、芝居見物などを楽しみ、29日高寿者の御目通りを許した後、山口へ戻り、翌11月晦日萩に着きました。

この巡見は美祢郡大田を通る珍しいルートで、期間も長期でした（深川・三田尻の滞在期間が長い）。治親の巡見記録はこれのみですが、治世が寛政3年(1791)6月までの約10年間（うち帰国は4回）と短かったことも関係したでしょう。あるいは父重就にならい、もっといろいろな場所を巡見する気持ちがあったかもしれません。

表 毛利家文庫6巡見事に残る重就の巡見関係記録
(宝暦2年～寛政元年／治親分は除く)

年代	西暦	期間	請求番号	文書名	冊数
宝暦2年	(1752)	10/21～11/12	6巡見事37	重就公始而御越 深川御湯治沙汰控	1
			6巡見事38	深川御湯治諸沙汰一件	1
宝暦4年	(1754)	9/22～10/12	6巡見事39	山口御湯治沙汰控	2
			6巡見事40	山口御茶屋御滞留御湯治控	1
			6巡見事41	山口御茶屋御滞留御湯治控	1
宝暦6年	(1756)	10/21～11/6	6巡見事42	生雲・徳佐御滞留御狩控	1
			6巡見事43	阿武郡辺御歩行沙汰控	1
			6巡見事44	生雲・徳佐御滞留御狩控	1
明和3年	(1766)	9/28～10/23	6巡見事45	山口・宮市・小郡御越之記	1
安永2年	(1773)	2/1～2/28	6巡見事46	深川御入湯之記	1
安永3年	(1774)	11/2～11/30	6巡見事47	深川御入湯日帳 付り御書付共	1
安永5年	(1776)	11/10～12/8	6巡見事48	三田尻御越之記	1
安永8年	(1779)	1/15～1/20	6巡見事49	重就公三田尻御越之記 日帳・御用状合冊	1
天明4年	(1784)	閏1/26～2/13	6巡見事52	三度目 大殿様御出萩南宛御滞留諸沙汰控	1
天明5年	(1785)	1/21～23	6巡見事53	御泊掛御歩行記録 定次郎様山口祇園会御見物御越一件共(小郡御越) 同上(上ノ関大島郡御歩行一件諸沙汰) 同上(大殿様小郡才判岐波・船木才判宇部御越控)	1
		2/22～3/1			
		7/20～24			
天明6年	(1786)	9/18～10/2	6巡見事54	大殿様・御内証様・熊五郎様 長府御越一件	1
		2/9～24	6巡見事56	大殿様御出萩南宛御滞留諸沙汰控	1
		2/晦～3/2 閏10/晦～11/3	6巡見事55	大殿様須々万・小郡・岐波 御泊掛御歩行記録(都濃郡須々万御越一件) 同上(大殿様小郡御越一件諸控)(小郡宰判岐波御越諸控)	1
天明7年	(1787)	9/11～晦	6巡見事57	大殿様・御新家様 御出萩諸沙汰控	1
		2/12～27	6巡見事58	御出萩一件	1
天明8年	(1788)	4/1～10	6巡見事59	湯田御湯治一件諸沙汰控	1
		1/15～18	6巡見事61	秋穂御越一件	1
天明8年	(1788)	4/21～25?	6巡見事62	山口御湯治記録	1
		9/4～27	6巡見事63	御出萩	1
		10/晦～11/3	6巡見事64	小郡御越一件諸沙汰控	1
寛政1年	(1789)	1/21～24	6巡見事65(4の1)	諸所御越一件(大殿様秋穂御越控)	1
		3/14～17	6巡見事65(4の3)	諸所御越一件(大殿様都濃郡須々万御越控)	1
		4/12～5/4	6巡見事65(4の4)	諸所御越一件(大殿様・熊五郎様・御内証様・御新家様 山口御入湯控)	1